

京都工芸繊維大学における教育の情報化

京都工芸繊維大学 藤田和弘, 安達 温

fujita@imagelab.jp, adachi@dj.kit.ac.jp

1 はじめに

本報告では、京都工芸繊維大学における情報化の体制、教育の情報化の具体的な取り組み、大学自体の情報化の具体的な取り組みなどについて、情報科学センターの専任教員として、また、情報化推進委員会の専門部会委員として、構想を練ると同時に具体的な実践を行っている立場から、紹介します。

本学では、教育の情報化の取り組みとして、

- ・ 工科系大学教育連携協議会での大学院遠隔授業
- ・ ALC NetAcademyを利用した英語の自学自習システム

を挙げるすることができます。

また、大学自体の情報化の取り組みとしては、

- ・ 事務局を中心としたWebグループウェア
- を挙げるすることができます。

2 大学の情報化の体制

本学では、主に事務局内の情報処理を担当していた会計課情報処理係を、平成15年度より情報化推進室に昇格させました。この情報化推進室は、現在、事務局内の情報処理のみでなく、大学全体の情報化の推進のために、情報化の企画・立案なども担当しています。

また、情報化推進室が中心となり全学的な組織である情報化推進委員会(委員長は副学長)を発足させ、その下に、以下の専門部会を設置して、情報化等に関連した実際の企画・立案・作業を行っています。

- ・ 教育情報化推進専門部会
- ・ 情報セキュリティ専門部会
- ・ 学術情報活性化専門部会

なお、情報化推進委員会自体は、副学長、学部長、情報科学センター長、事務局長が委員です。

3 教育の情報化

本学は、工科系大学教育連携協議会に加盟しています。この工科系大学教育連携協議会には、北見工業大学、室蘭工業大学、電気通信大学、東京農工大学、東京工業大学、長岡技術科学大学、北陸先端科学技術大学院大学、豊橋技術科学大学、名古屋工業大学、京都工芸繊維大学、奈良先端科学技術大学院大学、九州工業大学の工科系12大学が参加し、大学院生を対象とした遠隔授業を実施、教育内容の拡充を行っています。本学は、平成14年度より、単位互換協定に調印しています。また、遠隔授業は、各大学間で、平成15年4月より実施されています。

本学では、この工科系大学教育連携協議会での大学院の遠隔授業として、平成15年度より、「画像工学特論」

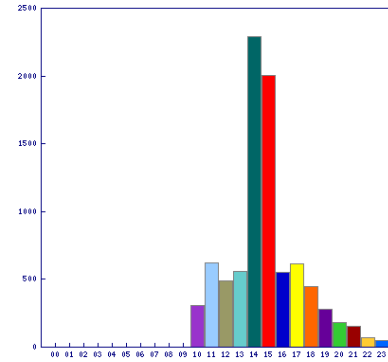


図 1: Blackboardへの時刻別アクセス

(中森教授担当)を提供しています。この科目を提供する上で、ラーニングマネジメントシステムとして、Blackboardを導入し、以下のような授業支援を行っています。

- ・ シラバスの提供
- ・ 授業のお知らせの提供
- ・ 授業の資料の提供
- ・ レポートの提示
- ・ 設問による授業内容の理解度のチェック
- ・ 受講状況の確認

また、多様なメディアを一体として提供する授業コンテンツとしては、MicrosoftのProducerで作成したマルチメディアコンテンツを、Microsoft IISとMicrosoft Media Serverとを利用して、インターネット経由で、ストリーム配信しています。

Blackboardの利用状況として、以下の統計情報を図1, 2に示します。

- ・ 時刻別アクセス
- ・ 曜日別アクセス

図2において、曜日別アクセスが水曜日に集中しているのは、講義が火曜日にあるからであると思われます。

また、本学では、英語の自学自習のために、平成16年4月より、ALC社のNetAcademyを導入し、大学院生を含む全学生と、常勤の全教職員のユーザ登録を行っています。これは、本学の中期目標・中期計画の、

TOEIC等を取り入れた実践的な英語教育を展開する。

という項目の具体的な実施の一部となっています。NetAcademyを利用した英語教育の充実には、英語担当教員3名と、情報科学センター専任教員1名(著者)、そして、情報化推進室の職員が中心となり、予算獲得、システムの構築・運用、学生へのガイダンスを行って

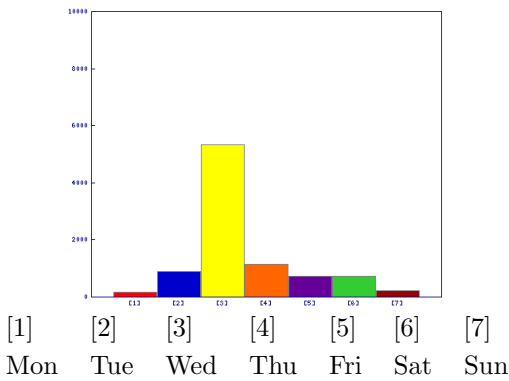


図 2: Blackboardへの曜日別アクセス

います。

今後の教育の情報化として、学部・大学院全ての授業科目において、教室での授業を支援するために、Blackboard上に、全ての授業科目を登録し、各担当教員が、シラバス、授業の資料提供、アナウンス、課題の提示と受け取り、質問の回答、設問による授業内容の理解度のチェック等を行うことを考えています。また、高校生への大学の授業の紹介という目的もあり、シラバスのマルチメディアコンテンツ化も考えています。

4 大学の情報化

本学では、情報化の取組として、2002年4月より、CybozuというWebグループウェアを導入し、事務局の職員を中心に、一部教員も登録し、情報の共有を行っています。具体的には、現在、以下のような利用を行っています。

- ・スケジュール機能...各自のスケジュールの公開、全学的な行事のお知らせ
- ・施設予約機能...会議室、公用車、研修室の予約
- ・掲示板機能...各種お知らせの掲示
- ・ファイル管理...各種申請書などの書式ファイルの管理
- ・社内メール...Cybozu内のメールでの連絡
- ・リンク集機能...ポータルとしての利用

システムの利用としては、2004年3月の利用統計を表1に示します。現在、アクティブな利用者は約200人強程度で、一日約10,000ヒット以上のアクセスのあるシステムとなっています。

2004年3月の日別アクセス統計を図3に、2004年3月の時刻別アクセス統計を図4に示します。図4より、出勤時刻である8時台のアクセスと、お昼休み後の13時台のアクセス、そして、退社時刻前の16,17時台のアクセスが多いことがわかります。

現在、情報化推進委員会情報セキュリティ専門部会では、情報セキュリティポリシーの策定を行っています。まず、情報セキュリティ基本方針を策定し、その後、情報セキュリティ対策基準を策定するという計画

表 1: Cybozuの利用統計(2004年3月)

	平均	最大
1時間当たりの最大ヒット数	424	2,834
1日当たりの最大ヒット数	10,193	16,621
1日当たりのファイル数	5,611	9,300
1日当たりのページ数	2,694	4,265
1日当たりの訪問数	360	528
1日当たりのキロバイト数	64,226	192,069

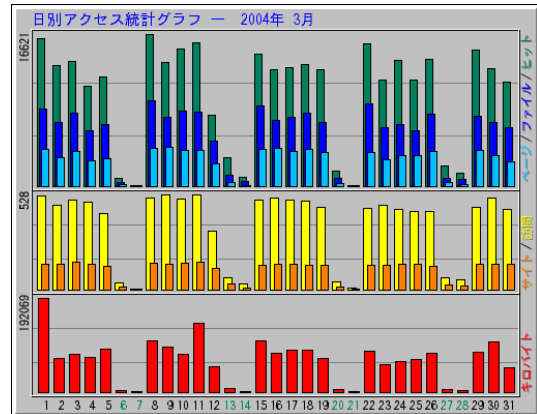


図 3: Cybozuへの日別アクセス(2004年3月)

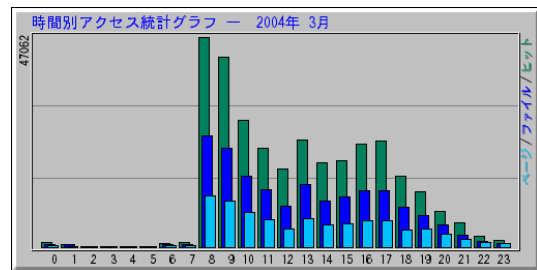


図 4: Cybozuへの時刻別アクセス(2004年3月)

です。情報セキュリティ基本方針については、部会にてほぼ決り、情報化推進委員会担当理事より学長へ説明の後、学長決裁にて、公開予定です。

5 まとめ

京都工芸繊維大学における教育の情報化と大学自体の情報化として、その体制、実際の取り組み、今後の方向性について、報告しました。大学内の情報関連施設だけによる情報化の取り組みは、なかなか、全学的な取り組みにはなりません。本学では、情報科学センターの教員と、情報化推進室をはじめとする事務局と、関係する教員(例えば、英語担当教員)とにより、情報化の取り組みが進行している良い事例のひとつであると思っています。